

## 編集後記

◆本号は近藤喜博氏の「天香山と天平瓮」と中西正幸氏の「森有札の神宮参拝をめぐりて」の二編と付録としては、明治初期の神道教学書である権少教正師岡正胤編輯「本教講録」第一・第二輯を収めた。

◆大和国の香具山・畝火山・耳成山の三山の中で、高さ十七丈（約51M）程の天香久山のみが、他の二山を抑へて記紀中に特に神聖視され注目の対象となってきた理由は一体何か、との点に先づ着眼して筆者は「天香山と天平瓮」を纏めてゐる。

◆神武天皇御東征の砌り、熊野の山嶮を越へ平野に出る。ここに天香山の名称はみえる。国見岳に八十梟帥蟠蛄。これらの賊の追討は天神の訓に従つて、天香山の社の中の土を採り、天平瓮を八十枚、巖瓮を造つて天神地祇を敬ひ奉り、巖呪詛を爲して賊を征する。天神の教示に従ひ、神武天皇は行動せられて、最終的に初期の目的、大和平定は完了する。天皇の御行動竝に天皇の勅を奉じて事を運ぶ過程の一齣一齣の記述と他に関連する記事とを広く涉獵し、筆者は神道の信仰史の重要な暗部の点を周到綿密に研究をした興味深い論文である。

◆論の展開の過程で丹生と水銀の問題、天香山の埴土に含まれる呪力的効果、神武天皇の顕齋の意味、崇神天皇紀の物部連祖伊香色雄が勅命をうけて、八十平瓮をもって祭神之物となさしめた理由、天社・国社の格付け、神地・神戸の制定等を天平瓮の呪術性とみ、天香山の埴土につらなるとみる論理

の一貫性によって説明してゐる点は成程と思はれる。特にシコは從來、醜字に注意が惹かれシコの消極面の解釈が主であったのに対し、シコの積極面、葦原シコヲの別名を持つ大己貴命が生太刀・生弓矢を振つて庶兄を追ひ拂ふ勇敢さをシコは暗示する語である旨を指摘したことには同感を覚える。

◆シコについて私見を陳べると、黄泉国はイナシコメシコメキキタナキ国であり、不須也凶目汚穢之国と表記されるのが災してキタナシは汚穢と心得られ、シコも汚に連鎖して醜字とかかれ從來永くシコ・キタナシは冤罪を負うてきた。キタナシはキタの延語。キタは古意では汚穢の意ではなく、反対の意。尊い・畏い意であらうと思考する。垂仁天皇二十五年に天照大神は伊勢に鎮られた。伊勢は、常世の国から浪が寄せる国、傍国可憐国であるからと紀にみえる。カタはウマシと対語。ウマシは美称であるからカタ国も当然美称である。カとケとは通音でカタ↓ケタ（ト）。ケトはケの処。ケはもののけ。神聖なるものの意。常世国と相通する。シコメキキタナキ国も、異常な威力者の住むカシコキ処との意と理解されまいか。カ（ケ）タシ国は神聖・佳き国であるから大神は鎮座地と指定された、と解くのが自然ではないか。

◆中西論文は、薩藩出身の外務官僚森有札が明治二十二年二月十一日、大日本帝國憲法竝に皇室典範制定發布の日の午前、文部大臣官邸應接室で長州萩城下の中土西野文太郎の手で刺殺された事件を、多感な二十五才の青年の思想、行動を探り、有札側・西野側・神宮司庁側の資料を参照しつつ、本事件の顛末を纏めたものである。

◆歴史的な出来事は或時、或処で起った一回限りのものである。二度三度と繰返しのない出来事に就いての報告が区々である。すると、第三者は何れの記事を認めたらよいか。判読上、見識が求められるか。新聞記者の報じた記事などは、自身で現場に立会って直接に目撃した報告でない限り（それですら眉唾の記事もある）、間接的な報告に止まる。信憑性、眞偽性の判別は容易なことではない。

◆本件は事柄上、まことに由々しい出来事であるから軽々に批判したり結論付けることは慎重の上にも慎重に臨むべきである。筆者は現職の神宮職員の人であると同時に研究者でもある。二重の立場におかれてゐるからして、学徒として日本人としての結論（を筆者が懐いてゐるとしても）を率直に吐露し難いことであらう。ギリギリの線まで記述してゐる苦心の跡は、もの書きの一人として充分に推察されるところだ。

◆読者はじっくりと熟読玩味して、紙背を透して、本事件の眞相を究めて欲しい。

◆本輯には権少教正師岡正胤編の「本教講録」第一・第二輯の全篇を採録した。

◆「本教講録」の内容は「此書は講録を旨とすれども教義に要なる考説文章詩歌等も採録して刊布せんと欲す、請ふ篤志の諸君講録説話秀詠佳章を投寄有らむ事を」と編者の謹白に明瞭であるやうに、明治初期での神道人の斯界の教學樹立・発展を期した活動の一端を示す資料と云へる。

◆第一輯は明治十三年十月廿三日、第二輯は同年十一月廿八日御届（発行）とある。定価は因みに金拾錢。参考までに当

時の物価二、三を示す。驛弁五錢（握り飯2個・梅干）。動物園入場料大人壹錢。小児五厘。鰻重二十錢。ビール十六錢（明治十年）。手紙料金二錢、はがき全国一錢、東京市内五厘。

（57・12・10・安津）

### 神道研究紀要（第六輯）

昭和五十七年十二月二十五日発行

会費年一、〇〇〇円

編集兼  
発行者

加藤玄智博士記念学会

代表者 高澤 信 一郎

郵便番号 一五一

電話番号 東京三七九一五五一

振替口座 東京九一四二五九三番

印刷所 明德印刷出版社